

井福ペインクリニック

井福正貴

井福ペインクリニック



写真1 クリニック外観

はじめに

京都市は年間5,000万人の観光客が国内外から訪れる日本を代表する観光都市であり、その中心地である京都御所の西側傍で、当院は昨年5月にペインクリニック専門科として診療を開始した。丸太町通という京都市内では比較的大きな通りに面したマンションの1階で、南北を走る地下鉄烏丸線の丸太町駅（京都駅から運行8分）から徒歩2分、京都府庁前のバス停からも徒歩2分と公共機関でのアクセスも良好な場所に位置している（写真1）。

開業までの経緯

筆者は「雛人形のお内裏様」によく似ているといわれる京都顔ではあるが、大分県出身の九州男児である。学生の頃より様々な痛みを治療するペインクリニックに魅力を感じ、初期研修

後は地元大学の麻酔科に入局したが、もっとペインクリニックを極めたいという強い渴望から、東京の順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座にペインクリニック専従として再入局をした。順天堂大学ペインクリニック外来は、宮崎東洋名誉教授からの長年の実績と周囲からの信頼で、急性期から慢性期の様々な痛みの患者さんが紹介や口コミで受診しており、おかげで多くの痛みの診療に従事することで一流のペインクリニックの技術を学び、成長することができた。医局では、手術麻酔が多忙な中でも稲田英一主任教授、ペインクリニックの責任者である井関雅子教授をはじめ、同医局の先生方の深いご理解の下で、外勤も含め週6日すべてをペインクリニック診療に従事させていただき、また、若輩ながらも同大学病院のペインクリニック病棟医長・外来医長を務めさせていただいたことは生涯忘れえぬ恩である。このまま、大学で更なる研鑽を積む予定であったが、筆者の妻が地元の京都での生活を強く望んだことにより、妻と出会うまで一度しか

〈Our Department and the Staffs〉

Ifuku Pain Clinic

Masataka Ifuku

Ifuku Pain Clinic

〈施設紹介〉

井福ペインクリニック

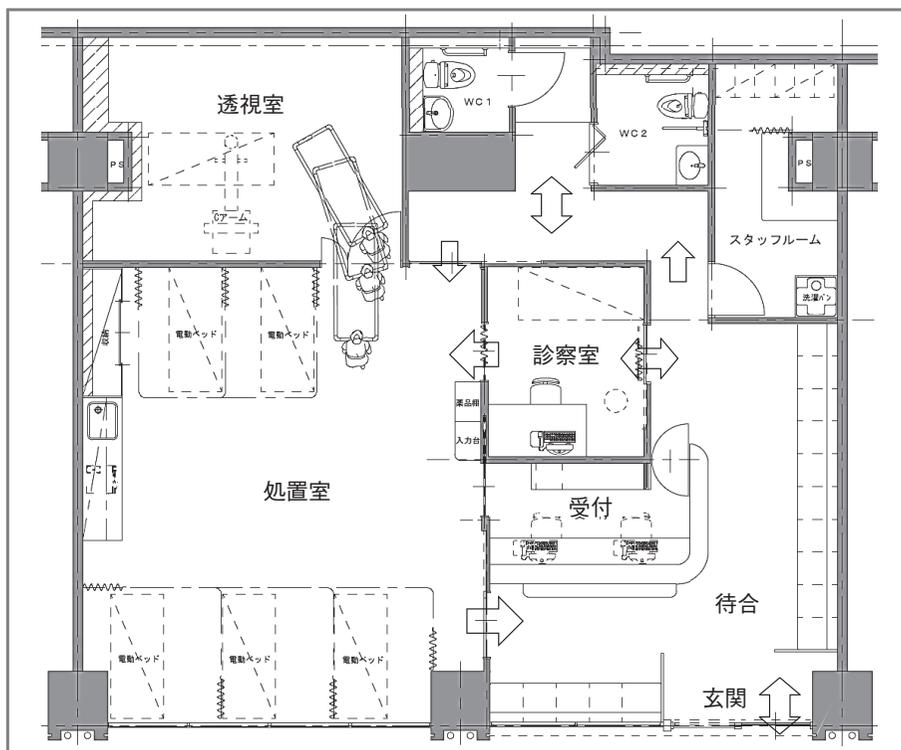


図1 クリニック平面図 (矢印は患者さんの動線)

訪れたことのなかった京都の地に落下傘での開業をすることとなった。

設備概要

総面積 123 m² (37 坪) で、診察室のほかに電動ベッド 5 台を有した処置室と C アーム型透視装置のある透視室がある。療機器はほかに近赤外線治療器が 1 台、自動血圧計数台、移動用ストレッチャー、車椅子が 1 台ずつといったシンプルな設備となっている。しかし、ストレッチャーから全ベッドへの移動が可能であり、トイレは男性用と女性用兼車椅子用とを分け、バリアフリーの面や患者さんの動線がスムーズになるよう工夫を凝らしている (図 1)。診察は予約制で行っているが、電話での当日予約も可能で、日曜日以外には急な痛みにより対

応できる体制をとっている。

当院での神経ブロック治療

ペインクリニックの最大の特徴である神経ブロックは、坐骨神経痛や頸椎症性神経根症、また、発症初期の帯状疱疹関連痛といった急性痛にはもちろんであるが、これらが慢性化した病態でも急性増悪 (再燃) が生じた場合などにも非常に有力な治療法であり、当院では頸部硬膜外ブロックや神経根ブロックなど、最も効果の高い神経ブロックを受診日に即時提供するようにしている。

筆者は開業まで 10,000 件以上の盲目下での硬膜外ブロックを行ってきたが、同方法は 10 ~ 30% で誤注入が起り得ることから、学会のガイドラインでも透視下で行うことが推奨され

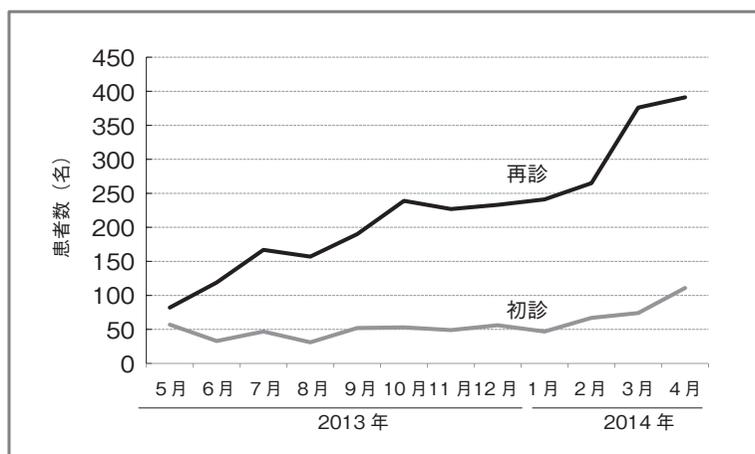


図2 月別来院患者数

ており¹⁾、当院では腰部も含めほぼ全症例を透視下で安全・確実かつ低被曝（短時間）で施行している。

神経根ブロックは神経障害のリスクが低く²⁾、従来の神経を直接穿刺するのと効果が変わらない³⁾抵抗消失法で行っており、施行時の痛みが少ないので他院での従来法での同ブロックを経験された患者さんなどからは特に好評である。

また、筆者が大学病院時代に前向き長期比較での臨床研究を行った腰部脊柱管狭窄症の間欠性跛行に対する神経破壊薬を用いた腰部交感神経節ブロック⁴⁾は、当院開業後も積極的に行っており、重度でなく手術を回避したい患者さんの希望に応えている。

慢性痛・心因性疼痛への取り組み

慢性痛や心因性疼痛（疼痛性障害）の場合は、当院でも薬物治療が中心となるが、オピオイドや抗てんかん薬、抗うつ薬などは痛みが軽減できても特に高齢者などでは眠気などの副作用が強く出てしまうことも多く、痛みが軽減されても副作用により日常生活に支障をきたしてしまうのでは意味がないと考えており、筆者はこれらにのみならず副作用の比較的少ない漢方薬も

積極的に使用している。これには順天堂大学病院時代に分院の東京江東高齢者医療センターに週1度通っていた際に、指導医の光畑裕正教授の下で実臨床での効果を学ばせていただいたことが非常に役立っている。

また、当院の治療で疼痛の改善が得られない慢性疼痛の患者さんに対しては、近くにある同志社大学の心理臨床センターと協力して、ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）という最新の心理療法で、「痛みの緩和」のみではなく、「生活の質」に焦点を当てて治療を行っている。

開院後の経過と今後の展望

東京から落下傘での開業であったため、患者数は開院当初は非常に少なかったが、他の医療機関や医業類似行為を行う接骨院や鍼灸マッサージ院などで治らなかった痛みを治療していくうちに、徐々に口コミにより患者数は増えてきている（図2）。また、今年に入って、筆者が大学病院時代にガバペンチンとの臨床効果の比較検討を行っていたプレガバリン⁵⁾の宣伝広告が、ペインクリニック学会ホームページの専門医一覧と連結していることから、当院を知り

(施設紹介)

井福ペインクリニック

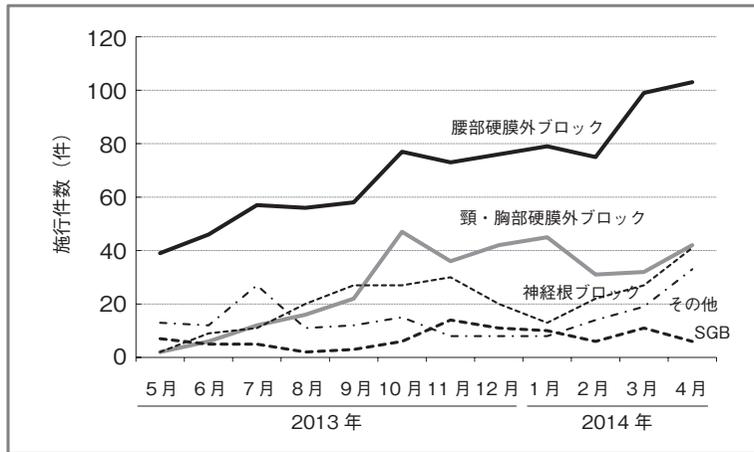


図3 月別の神経ブロック件数

受診するケースもあり、多い日は予約患者さんをお待たせしてしまうことが出てきた。透視下神経ブロック自体は数分で終わるものの、ブロック前に毎回行う診察と十分な説明は欠かせず、ブロック自体の件数も増えているので待ち時間の問題は今後の検討課題となっている (図3)。

人口140万人の京都市内には、10万人あたりの全国平均226人の医師人口が、京都では374人と医者が過密な状態にあるものの、ペインクリニック学会認定専門医を持った開業医は市内に数えるほどしかおらず、東京などの関東圏に比べてもペインクリニックの認知度は低い。当院は、本年、京都府内の診療所では初めて学会指定研修施設の認定を受けた。今後は大学病院で継続できなかった後進のペインクリニックの育成も視野に入れつつ、「京都の痛みのかかりつけ医」として診療に邁進することで京都のペインクリニックの発展に貢献できればと考えている。

文献

- 1) 日本ペインクリニック学会インターベンショナル痛み治療ガイドライン作成チーム・編：インターベンショナル痛み治療ガイドライン。東京，真興交易医書出版部，2014
- 2) 井福正貴，井関雅子，長谷川理恵，他：従来法と抵抗消失法での腰部神経根ブロックにより生じた神経穿刺後痛の比較。ペインクリニック 34：393-389, 2013
- 3) Pfirrmann CW, Oberholzer PA, Zanetti M, et al: Selective nerve root blocks for the treatment of sciatica: Evaluation of injection site and effectiveness. Radiology 221：704-711, 2001
- 4) Ifuku M, Iseki M, Hasegawa R, et al: The efficacy of lumbar sympathetic nerve block for neurogenic intermittent claudication in lumbar spinal stenosis. Indian J Pain 27：159-164, 2013
- 5) Ifuku M, Iseki M, Hidaka I, et al: Replacement of gabapentin with pregabalin in postherpetic neuralgia therapy. Pain Med 12：1112-1116, 2011

※ ※ ※